

# CASBEE® 京都-新築

## 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	特別養護老人ホーム山科洛東園	階数	地上4階
建設地	京都市山科区御陵岡町1番2 他14筆	構造	S造
用途地域	第一種中高層	平均居住人員	180 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年6月14日
敷地面積	4,555.69 m <sup>2</sup>	作成者	内藤建築事務所
建築面積	2,054.55 m <sup>2</sup>	確認日	2019年6月14日
延床面積	6,982.58 m <sup>2</sup>	確認者	神先 誠司



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 ①参照値 100%  
 ②建築物の取組み 90%  
 ③上記②以外の 90%  
 ④上記+ 90%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 建物の周囲を積極的に緑化し、外構面の表面温度の低減や蒸散作用による冷却により、下記の熱取得を緩和する計画とする。また、太陽光パネルの設置や断熱性能の高い現場発泡硬質ウレタンフォームの使用を行い、環境性能の高い建築となるように計画した。		造成設計と調整を行い、場内の掘削土搬出を低減する計画とし、工事車両の減数と環境の変化を抑えた計画とする。
<b>Q1 室内環境</b> 利用者が使用する居室は床面積の1/7以上の有効採光面積を確保し、自然採光により明るく開放的な空間となるように計画した。窓は全て複層ガラスの計画とし、ガラス面の熱損失を防ぎ、空調負荷の低減を図る計画とした。	<b>Q2 サービス性能</b> 居室は床面積13.20㎡以上を確保し、自由度が高く、個人領域を形成しやすい計画となるように計画した。また、トイレに各種手摺を設置する等、福祉施設として求められるバリアフリー性能を有する計画とした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 中庭を設け、気軽に利用者が緑と触れ合える計画とした。また、敷地の西側に庭園を計画し、利用者が緑の中で寛げる空間とした。また、1階に地域交流スペースを計画し、地域のアメニティの向上に貢献できる計画とした。
<b>LR1 エネルギー</b> 外壁面に断熱性能の高い現場発泡硬質ウレタンフォームの吹付を行い、また、開口部のガラス面を複層ガラスとし、熱損失の軽減を図ることで、高断熱の建物とした。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 窓枠、家具、サインに京都府内産木材を使用する。また、再生ビニルを原料として使用するビニル床シートを採用した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪場を場内に十分な台数を確保する。また、空調室外機を屋上に設置し、近隣への騒音に配慮した計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される